

1 全体計画

学校の教育目標

ともに生きる子

・人と ・社会と ・自然と

平成28年度学校経営方針

- 学ぶ喜びのある学校 ○あいさつと心が通い合う学校 ○人とのかかわりを深める学校
- 保護者・地域に信頼され、期待される学校 ○学び続ける教師のいる学校 ○学び合い、かかわり合い、自然愛

本校のとらえる「確かな学力」

- ・考える力（比較、関連、統合等） ・わかりやすく表現する力（聞く、話す、書く、あいさつ、日常会話等）
- ・文章に即して読み取る力（説明文、語彙、漢字） ・自ら課題を解決する力（課題解決、個別対応）
- ・発達段階に応じた体力

平成28年度の指導の重点

<各教科>

- (国語) 「書く」力をつける指導を徹底する。
- (図書) 学校図書館活用計画を活用する。
- (社会) 資料や課題の工夫。調べた事実をもとに比較・関連付け・総合しながら考え、言葉で表現できる力を育てる。
- (算数) 基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。
- (理科) 課題や教材を工夫することで、問題解決力を育て、科学的な見方・考え方を養う。
- (生活) 活動や体験を一層充実させるための学習活動を工夫。
- (音楽) 基礎的、基本的な技術を身に付け、思いや意図をもって音楽を表現する喜びや楽しさを学ばせる。
- (図画工作) 楽しみながら基礎基本を身に付け、人・もの・場と関わりながら活動ができるようにする。
- (家庭) 単元構成や調査や実習を工夫して、学習意欲を高め、実践による問題解決の力を高める。
- (体育) 互いに関わり合い、楽しく運動ができるように、指導法や学習活動を工夫する。
- (外国語) 英語でコミュニケーションを図る能力の素地を養う。

<道徳>

教育活動全体において、年間指導計画に基づき、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度などの道徳性を養うように指導をする。道徳の時間では、各教科や総合的な学習の時間に関連させて指導

を工夫し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方について深め道徳的実践力を育成する。

<特別活動>

「全校遠足」「子ども祭り」「なかよしタイム」では、集団活動を通して、思いやりと協力し合う態度を育てる。（全学年による縦割り班活動を年間を通して行う。）また、委員会、クラブ、行事の係分担などを通して集団の一員としての自覚を深める。

<総合的な学習の時間>

人、社会、自然とのかかわりを重視した活動を工夫し課題解決力を育てる。

<生活指導>重点指導「あいさつをきちんとしよう」

(全校朝会) 毎週月曜日に看護当番は、前週の反省と今週の取り組みについて指導する。

(登校指導) 看護当番を中心にあいさつ、着帽指導を行う。

(ノーチャイム) 自ら時間を意識して行動することができる子を育てる。

(校内掲示) 児童が書いたポスターや作品を掲示するコーナーを整備し自分の思いを伝える活動に興味関心を高める。

(あいさつ強化週間) 各学期の第一週に全校での指導を行う。その他の時期にも代表委員会と連携して取り組みを行う。

(日常会話) 教科等の指導において場に応じた言葉づかいについての指導を継続すると共に、必要なあいさつの仕方を教室に掲示する。

<進路指導>

将来の夢や職業への憧れをもち、実現させるために、今、そして今後努力すべきことに気付く。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・個に応じた指導の徹底（1～6年算数の少人数 5・6年理科T T）
- ・ベーシックドリル・ICTサポーター・ALT・学習指導支援員を活用した基礎基本の定着

教育課程編成上の工夫

- ・行事、週時程の見直しによって授業時数確保
- ・年間7回の土曜公開授業
- ・塔山タイムを活用した漢字・計算の習熟
- ・夏季休業中の補充学習の実施
- ・とうのやま学級との連携
- ・少人数・学習指導支援員による放課後補充学習

評価の工夫

- ・年間指導計画に基づく評価計画の作成
- ・意識調査、各学力調査結果の分析の活用
- ・各評価規準の作成
- ・評価方法の工夫

校内研究・研修の工夫

- ・道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えが深まる指導法の工夫
- ・小中連携の取組
- ・オリンピックパラリンピック教育の取組
- ・OJTの工夫

家庭・地域との連携の工夫

- ・年間2回の面談の実施
- ・学校公開・行事のアンケートの実施
- ・学校評議委員による関係者評価の実施
- ・保護者や地域のボランティアとの連携